

新宮山彦ぐるーぷ第2255回

行仙宿、モノレール延伸予定ルート^①の整備

◇実施日 9月24日(日) 曇りのち晴

◇参加者 沖崎吉信、中前偉、湯川一郎、濱野兼吉、阪口雄二、
大江徳子、畑林清子、西克、高階美根子、梶野照雄、
瀧本昭太郎、山口泰弘、高橋桂太、由井洋三 14名

モノレール延伸についてカマハラテックさんに10月末日までに完工をお願いしている。延伸工事がスムーズに行えるように、また更に少しでも経費節減になるよう予定ルートのアセビやシダの伐採を事前に行うこととし、14名の皆さんの参加でほぼ全ルートの刈開きが終了した。



刈込道具類



シダを刈る



刈込後

大人数であったことや中前君から刈払機2台の提供があったこともあり、3時間弱の作業で約260mを完工することができた。西、阪口のお二人は刈払機の作業経験があり、梶野君と瀧本さんはチェーンソーに慣れている。ヘッジトリマーも加わり、機械力が大きな助けとなった。

当日朝8時半、役場駐車場に14名が集まり沖崎より参加のお礼と今日の作業予定を説明し登山口へ向かう。

モノレールの荷台は毛布や刈込道具、ザックと背負子で満杯になるいつものように終点から手分けして毛布と道具類を運ぶ。最後尾で第2ベンチに着くと皆さん休憩中だ。道具類が多いので第2ベンチ迄2往復が必要かと思ったが、皆さんのガンバリで全て運ぶことが出来た。



新登山道予定地



床を清掃



本日の参加者

搬送に時間がかかることを見越して、午前中は小屋の清掃、午後から刈開き作業と考えていたが、第2ベンチまで全ての荷物を運ぶこ

とが出来たので午前中に刈開き作業を行い小屋の清掃を午後に戻すことにした。そのため女性陣3名は小屋に先行していただいた。刈払機は西、阪口の2名が担当。チェーンソーは梶野、瀧本が、ヘッジトリマーを高橋君にお願いした。他の6名は伐採した木の除去などを行った。伐採する木はアセビが殆どで、以前の線下伐採で残されたカエデなどの株が少しある。アセビは根元が1本ではなく4〜5本に分かれて伸びている。直径は3cmほどなので手ノコでも切れることは可能だが、チェーンソーだとあつという間に切ることが出来る。第2ベンチから上、シダ斜面の西、阪口班も順調に刈進んでいる。モノレール終点予定地のすぐ下、送電線下までのシダ刈りが終わり、第2ベンチ下方に新しく作る登山道部分の開削もほぼ完了した。午前10時に開始し11時30分過ぎに予定していた部分を終えて小屋に向かった。



管理棟の毛布を降ろす



21番鉄塔下を刈る

小屋では床に敷かれたマットが外され乾拭きが済んでいた。今日は

湿度が高いので雑巾がけは次回に行うそう。今日予定していた小屋での作業は女性陣の奮闘で全て終了した。今日運んだ毛布で小屋の毛布の洗濯は終了、以後は管理棟の毛布を洗濯することになる。思い起こせば大型連休前から始めて、行仙宿訪問の都度10数枚の毛布を持ち降ろし、総数100枚近い毛布を手洗いで洗濯してくださった大江、畑林の両氏に厚くお礼申し上げます。

毛布全数の洗濯は小屋の管理が始まって以来、初めての事だろう。過去の記録にも「毛布洗濯」と言う文字は見当たらない。



モノレール延伸予定ルートの全貌

下山

午後はまだ時間も早いのでモノレール延伸後の終点となる21番鉄塔横と現終点と新レールの接続部分の刈開きを行う。

施工業者の判断でどのような形状でレールを繋ぐかが判らないのだが、出来るだけ幅を持たせて刈っておこう、と言うことで上部を梶野、下部を瀧本のチェーンソー主体で樹木の伐採を行った。

1時間ほどで上部、下部ともに完了。幅員1.5mと2mのルートが出来上がった。これで施工時にチェンソーを使うことは少なくなっただと思う。

作業人数の確保と刈払機やチェンソーなどの機械力が大きな助けとなったことを改めて感じた。

午後3時前、登山口に下山し10月の予定などを説明して解散した。

(記：沖崎)

行動タイム

08：25 役場駐車場→09：00 補給路登山口→09：54 第2ベンチ 11：

33→12：02 行仙宿 13：02→13：16 第2ベンチ 14：15→14：45 補

給路登山口